

2016年1月4日

報道関係各位

NEC ネットズエスアイ株式会社

2016年社長年頭訓示要旨について

NEC ネットズエスアイ（東京都文京区、東証第一部 1973、NESIC）では、本日、社長の和田雅夫が、社員に向けて2016年の年頭訓示を行いました。要旨は以下のとおりです。

<2016年 年頭訓示要旨>

【現中期計画をやり遂げ、次の成長のスタートを切ろう】

2015年は、事業分野ごとに強弱が分かれた斑模様の年であった。企業のICT投資は堅調に推移した一方で、通信事業者のネットワークインフラ投資は大きく抑制された。官庁・自治体・社会インフラ分野は、消防無線デジタル化投資のピークアウトはあるものの、安心・安全関連や交通インフラ関連など全般に堅調に推移した。海外においては、アジアを中心にインフラ投資が積極的に行われた。

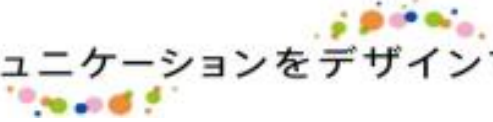
このような環境下で、当社は、今後に向けた新たな市場開拓を進めた。4月には、活発なインフラ需要が期待できるミャンマーにおいて、タイ法人の下、ヤンゴンに支店を設立した。すでに通信インフラや太陽光発電など、着実な成果が出てきており、さらに現地に根付いた事業展開を進めていく。

また、10月には、法人向けのIoT事業を目的とし、MVNO業者として回線サービスを開始した。機器の調達・設置、ネットワークとの接続・SI、全国のサービス基盤を活かした保守・運用、そして回線サービスまで、IoTに係わる全てのサービスを一括してお客様にご提供できる点が強みであり、さらに回線サービスのフレキシビリティやセキュリティの高さといった特色を活かして拡大を図っていく。

さて、2016年は、現在検討を進めている次期中期計画の初年度である。2015年に進出したIoTや、ミャンマーなどアジアのインフラ市場は勿論、場所にとらわれない働き方の多様化や、次世代放送(4K/8K)関連や国土強靱化関連、オリンピック関連など、次期中期計画の期間中には様々なビジネス機会があると考えており、これまでに積み上げてきた成果や打ち手をベースに、さらなる進化・拡大を目指していく考えである。

新中期計画のスタートダッシュを行うためにも、まず、あと3ヵ月残された2015年度をきちんと締め、現中期計画を最後までやり遂げることが重要である。顕在化する事業機会をきちんととらえるとともに、原価改革やSG&A効率化など、事業構造のさらなる強化に向けた努力を継続し、より力強い次期成長につなげようではないか。

最後に、2015年は国内、海外ともにコンプライアンスに注目が集まった年であった。当社としても、改めてコンプライアンス最優先を確認し、全グループ社員一丸となって、次の成長に向けて新たなチャレンジをしていこう。



明日のコミュニケーションをデザインする

NEC ネットズエスアイは、
お客様の目線に立ったこれからのコミュニケーションをデザインする会社として
お客様の価値向上に取り組んでまいります。

<本件に関するメディア関係からのお問い合わせ先>
CSR コミュニケーション部コーポレートコミュニケーショングループ
電話：(03) 6699-7007
E-Mail：contact@dm.nesic.com